

(採)

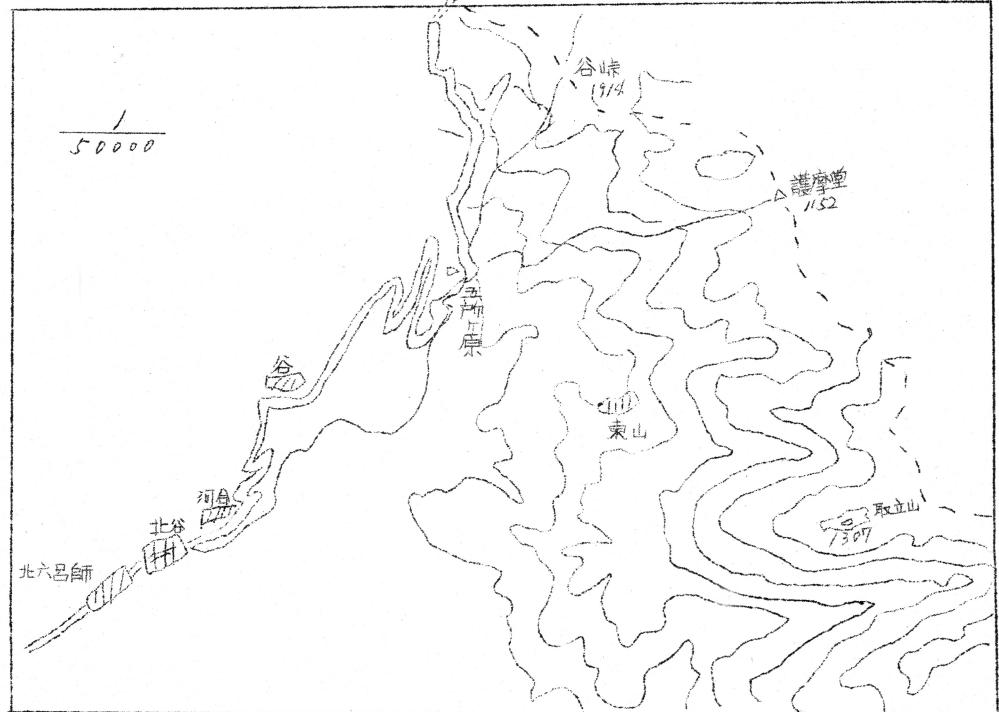
採集記

取立山採集記

昭和36年5月15日 早春の植物を採集しようと思い、午前7時27分福井発大野行の電車で堀館長以下4名が出発、聯山で下車し、待ちかまえていた聯山中学の先生方、生徒らと合流し、北谷行のバスに乗り、北谷に到着したのが、10時近くだった。それで、生徒の足では最終バスまでに往復は不可能と思い、北谷に残留してもらい、一行4名は護摩堂峠をめざして強行軍を開始した。

北谷から大根畠の間では

ラショウモンカズラ、ミヤマヨメナ、キバナイカリソウ、アズマハンショウズル、ザゼンソウ、シヨウジョウスゲ、オニシモツケ、ミヤマカタバミ、スミレサイシン、アカモノ、ザイフリボク、マンネンスギ、エンレイソウ、トキウイカリソウ、キンキマメザクラ、ヒカゲノカズラ等を採集



して大根畠に致着すると、谷間には残雪がありその近くには、ニリンソウが咲き早春の感じがよく出ていて気持がよかつた。ここで風食を取り、護摩堂峠へと再び進んだ。

大根畠から護摩堂峠間では

ミヤマカラハシノキ(オバルハシノキ)、ツノハシバミ、キンキマメザクラ……満開、トウグミ、マルバマンサク、(花あり)、オオパクロモジ、サンカヨウ(満開)を採集しながら、谷に出て、雪の上を進み護摩堂峠にさしかかると、ムラサキヤシホが咲きほこつてあり、しばしその美しさに見とれた、すぐ10本ほど採集した。

峠の上にて取立山の頂上に向つて前進すると、イワウチワ、タムシバの花は今を盛りと咲きみだれ、その集団美を鑑賞しながら進むと、次に、ヒロハツリバナ、ウラジロヨウラク、ミツバオウレン、マンネンスギ、ヒカゲノカズラ、アスピカズラ、シノブカグマ、ナナカマド、マイズルソウ等があつた。

待望の石川県側のミズバショウが自生している池に1時半頃致着した。池の面を見ると、雪が4分の1位残つており、ミズバショウの花が水の上に七分咲ぐらいで顔を出して我々を迎えてくれたが、山岳会の人達と工場の一団が60~70人きていて、ミズバショウの上を平気で歩いているのにはまつたくあきれてしまつた。

ここで20分程休み、谷峠を通り、五所ヶ原でバスに乗り、北谷でどうらんを一ぱいにして待つていた中学生を乗せ一路勝山へと走つた。なお、ミズバショウは福井県側にも50株ほど自生していることを確認した。

1 *Lysichiton camtschatcense* SCHOTT. ミズバショウ

福井県側が南限である。

2 *Lycepodium complanatum* LINN. アスピカズラ

現在の福井県では唯一の産地である。

(岐阜県石徹石村 上在所、和田山)

3 *Rhododendron Albrechtii* MAXIM. ムラサキヤシホ

越前以東の本州、北海道に自生するもので、本県では、三の峯、その他の県境山脈

## 渡辺定路記

### 竹田吉谷採集記

昭和36年7月9日 坂井郡竹田村、吉谷村近で採集会を行なつた。始めは、火燈山の方へと思つたが吉谷までに時間を過しすぎたので、吉谷付近で採集せざるを得なかつたのである。

参加者は、堀館長、寒蝉、八田、三田村、林、坂井郡理科研究会の人達を含めて25名であつた。